

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 三郎の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県出水市住吉町6-18
記入者名 (管理者)	林 朱美
記入日	平成 21年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「人権・安心・共生」をもとに、当ホーム独自に 私たちはあなた自身を受けとめて、暮らしを支えます 私たちはあなたの笑顔を大切に心に寄り添います 私たちは地域を知り、地域の方々との顔なじみになりますという理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアで迷う時は理念に立ち返り、何をすべきか正しい選択が出来るよう皆で協議している。理念アンケートにより個々の実践状況を確認しあっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内の見えやすい場所に理念を書いた額を掲げている。家族会や運営推進会議でも内容を説明し、理解を求めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物の途中など、近隣の方と挨拶を交わしたり話をする事が出来交流も増えてきている。毎日のように花の水やりや庭掃除をして下さる方や、遊びにきて下さる方もいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、当番の月は入居者と一緒に配り物をしている。自治会長さんの協力を得て地域行事への参加も増え、夏祭りでは出演者としても参加させてもらった。		地域の一員として地元住民の方々ともますます交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、職員が参加した研修での資料をもとに認知症高齢者について学ぶ機会を持つことができた。研修の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価・外部評価を実施する意義を職員に説明し、全員で自己評価に取り組んでいる。昨年の外部評価で指摘をうけた所は、改善計画シートにて改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員・近所の方やご家族に参加してもらい2ヶ月に1回、開催している。評価で明らかになった課題については会議で報告し、意見交換をしている。		今後も取り組み状況を明らかにし、頂いた意見をサービスの向上に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上で困っていることや疑問は、電話や訪問等で相談し、適切なアドバイスをもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの方の協力を得、権利擁護について学ぶことができた。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部評価に向けての勉強会の中で、より具体的な内容を学ぶことができた。絶対に許されない行為として全職員が遵守に向け取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり、丁寧に説明するよう努めている。特に、利用料金・起こりうるリスク・個人情報の取り扱い・加算等については詳しく説明し同意を得るようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の表情・言葉・態度から、ご本人の意向を察するよう努めている。出された意見は職員で共有し、日々のケアに活かしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来訪時や電話で入居者の状況を伝え、またご家族からの質問・要望にお答えするようにしている。金銭管理の方法についてご家族に説明し同意を得ている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から、ご家族が意見を出しやすい雰囲気を中心掛けており、母の日・父の日行事の後には家族会を開いている。出された意見については職員会議で話し合い改善に向け取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、個別面談等で職員の意見を聞くようにしている。法人全体としては年1回の総会や職員集会を開き、意見を聞く場を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応が出来るよう、余裕を持った人員配置をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入った場合は、入居者の方をはじめご家族にも紹介している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では認知症ケアに関する学習会を月1回開いている。事業所外での研修にも、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。参加した職員は報告書を書き、職員会議で報告している。		昨年より、法人内で相互研修を実施している。今後は、法人全体として職員の段階に応じた研修計画を立て取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のGH連絡協議会に加入し、事例検討会や研修会に積極的に参加している。地域のGHと交流する機会を持ち日々のサービスや職員育成に役立てている。法人内での相互研修も実施している。		他施設見学、相互研修等積極的に取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間はゆっくり休めるようスペースを確保している。日常や個人面談の中で職員のストレスや体調等について把握するよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則により職員の労働条件は整えられている。資格取得に向けた支援を行っており、取得後は資格が活かせる環境を整え、向上心を持って働けるよう支援している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時には、必ずご本人に会い心身の状態や困りごと、ご本人の思いが把握できるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、ご家族の話をよく聞き、思いを受け止めるよう努めている。そして事業所としてどのような対応ができるかを含め、話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い・状況を把握した上で、必要とされている支援が何なのか見極め、場合によっては担当のケアマネジャーを通し他のサービス機関の紹介を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談があった時は、ご本人とご家族に見学をすすめ当ホームの雰囲気を見てもらっている。緊急性のある場合でも、できるかぎり何度か遊びにきてもらったり、ご家族と一緒に宿泊してもらうなどの工夫をして、当ホームに慣れて頂けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で出来ることをしてもらい、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。職員が入居者に頼ったり助けてもらう場面を作り、年長者としての誇りや自信を引き出せるよう心がけている。		入居者の得意・不得意を全職員が把握し、より多くの場面づくりをしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時を利用し日々の状況を伝えており、共に本人を支える姿勢での関係作りに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の状態や健康面に変化があった時は、報告・相談するようにしている。行事など交流する場面を増やし、また機関紙等を利用し入居者の状況を伝えるようにしている。		遠方でなかなか面会に来られないご家族には、個別にお便りを出し近況報告が出来るよう配慮したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が尋ねてきやすいオープンで温かい雰囲気作りを心がけている。ドライブ途中で慣じみの場所や自宅に立ち寄ることもある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングやダイニングでの座る位置など入居者同士の関係を把握し、調整している。たとえ関係が思わしくない入居者同士でも、職員が間に入るにより心通わず時間が持てるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などサービスの利用が終了された方に対しても、職員が会いに行ったりご家族からの相談を受けるなど、継続的な付き合いを心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で入居者の言葉や表情から思いや暮らしへの意向をくみ取るよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、ご本人やご家族から情報を得るようにしている。入居後もプライバシーに配慮しつつご本人やご家族、面会に来られた方などから聞き取るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズム・心身の状態・出来る力をチーム全体で把握し、必要な時に必要な支援が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からも情報が得られるよう話し合いをもつことがあるが、主に職員間で行っている。		関係者からより多くの情報や意見を集め、介護計画に反映させていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うようにしている。小さな気付きやもっとこうしたらケアに活かしやすいなどの情報は常に共有できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し、共有に努めている。		日々の記録や気づきを、介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が中心となり各医療機関との連携に努め、必要な医療を受けながらグループホームでの生活が継続できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じ、警察・消防・自治会長・民生委員の方々へ協力を依頼している。運営推進会議の中では、関係者の方々と意見交換する場を設けている。行事等にはボランティアの協力も得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状況や希望に応じ訪問マッサージや訪問理美容、車椅子のレンタル等のサービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市の介護保険課の方に参加してもらい、いろいろな助言を頂いたり、意見交換を行っている。また、地域包括支援センターの方に講師としてきてもらい、権利擁護について勉強会を行った。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の医療を受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に知見のある神経内科の医師と連携をとり、助言・指示を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり常勤の職員にも准看護師が2名おり、往診時の対応・受診介助・日常の健康管理を行っている。看護師が不在の場合も、24時間いつでも相談可能な体制を整えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時・入院後・退院前の病状説明の時は管理者がご家族と一緒に参加、あるいは電話で情報共有し、早期退院に向け皆で協議している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する指針を定め、必要に応じご家族・医師・看護師と話し合う機会を作り、対応方針の統一を図っている。平成21年1月には、“看取り介護についての同意書”を作成する。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	普段より健康管理についてご家族や医療機関と密に連携するよう努めており、チームとしての支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られたケースはない。別の施設から移り住まわれる際には、事前訪問・電話・文書等で関係者から詳しい情報を得るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>不適切な言葉づかいや対応がなかったか、職員は日常的に点検し職員会議等で改善に向け話し合っている。個人情報の取り扱いにも十分配慮し、情報の漏洩防止に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>些細なことでも、ご本人が決めることができる場面を作るようにしている。入居者に合わせた声掛けや働きかけをし、決して無理強いしないよう気をつけている。</p>	<p>意志疎通の難しい方についても表情や行動から希望や好みを把握し、ご本人の気持ちに沿った支援をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の業務中心の流れにならないよう、お一人おひとりのペースを大切にしている。しかし入浴時間やパジャマに着替える時間は、体制上また安全上お一人おひとりのペースではできていない。</p>	<p>その日、その時の気持ちを尊重し、柔軟な対応ができるよう工夫していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>鏡を見てご自身で整える場面を作っている。不十分なところや乱れは、さりげなく職員が直している。訪問理美容を利用する方やご家族が面会時に散髪される方など、個々に応じた支援をしている。</p>	<p>ご本人のこだわりを大切にしつつ、おしゃれをもっと楽しんで頂けるよう取り組みたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も入居者と同じテーブルで会話を交えながら食事をしている。一方的に食事を提供するのではなく、準備～後片付けまで入居者のできる力が発揮できるよう場面作りをしている。</p>	<p>入居者の食べたいものが提供できるよう、一緒に献立を考える機会を増やしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつや飲み物は、ご本人の好まれるものを用意している。タバコやお酒を飲む習慣のあった方には、入居後も楽しめるよう支援している。タバコやお酒の管理は職員で行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が排泄パターンを把握し、個々に応じて誘導や介助を行っている。状況によってはオムツ類やパット等の検討をし、自立を妨げず気持ちよく排泄してもらえるよう工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は午前中に行っている。入浴を拒否される時は声かけの工夫や時間をずらすなどして、決して無理強いしないようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況に合わせて、落ち着かれる場所で休息がとれるよう配慮している。布団で眠られる方もいればベッドの方もおり、それまでの習慣やリスク面も考慮しご家族との話し合いの上、決めている。寝付かれない時は添い寝をしたり一緒にお茶を飲むなど、安心されるまで側にいるようこころがけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりの個性・能力・好みを把握し、その方の力が発揮できるよう支援している。ホーム内の生活だけでなく、外出や地域行事への参加の機会を持つようにしている。		お一人おひとりにあった楽しみや役割を見つけ、支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材や日用品の買い物に同行してもらい、一緒に品物を運んでもらっている。その時を利用し、自分の好きなものを買われる場合はさりげなく見守り、必要に応じアドバイスしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそってはできていないが、ドライブや散歩など戸外に出かける機会を持つよう努めている。		短時間でも外に出る機会を持ち、気分転換やストレスの発散ができるよう支援したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事や外出など、出かける機会をつくっている。入居前に出席されていた会合に、現在も出席されている方がいる。お一人おひとりが行きたい遠い場所への外出支援はできていない。		ご本人の思いに沿った外出が実現できるよう取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での通信支援が主である。遠方より贈り物やハガキが届いた時は、必ずお礼の電話がかけられるよう配慮している。職員と一緒に、ご家族や知り合いの方に年賀状を送っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、いつでも気軽にきて頂けるよう配慮している。他の入居者に気兼ねされないよう、居室や広縁でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を行っている。		職員会議の中で自分たちのケアを振り返り、身体拘束や虐待につながるような不適切なケアが存在していないか、点検していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠は行っている。日中は玄関の網戸にチャイムを取り付け、入居者の方が外に出られたときは止めるのではなく、さりげなく声かけし一緒についていくなど職員間で連携をとりながら見守りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員が入居者を見守りやすい位置にいて、所在や様子を把握するようしている。		所在や様子の把握が確実にいえるよう、各職員の意識とチームワークを高めていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のかかる戸棚にしまい、刃物類も直接目に触れないところに置いてある。管理が過剰になってはいけませんが、状況に応じて見直しを行っている。		入居者の状況に応じ、管理方法を検討していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットノートを作り、些細な事も記録し皆で情報を共有している。場合によっては緊急のミーティングをひらき、事故の再発防止にむけ取り組んでいる。		日頃よりお一人おひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防げるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急蘇生法の講習会に参加している。転倒時・急変時・行方不明時の対応についてはマニュアルを作り、ミーティング等ですべての職員への周知を図っている。		実際の場面で活かせるよう、定期的な学習会や訓練を実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て入居者・近隣の方と一緒に、避難訓練を行っている。運営推進会議の中でホームの実情を伝え、行政・地域の方々・ご家族に対し災害時の協力依頼を行った結果、避難場所の確保や災害時の協力体制ができつつある。		非常災害時の対応手順・役割分担等、より具体的なマニュアルを作り、いざという時実践できるよう日頃から話し合いや訓練をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常の中で危険だと判断した場面があった時には、ご家族にも相談し一緒に対応策を考えるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを含めご本人の訴えや様子の変化など健康状態の把握に努め、異常がみられた時は管理者に報告している。状態によっては主治医に報告し早めの対応に心がけている。体調の変化があり、急に病院受診した時は必ずご家族にも報告している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診の時は必ず記録に残し、薬の変更等についても全職員が把握するよう努めている。状態に変化が見られたときは直ぐに管理者に報告し、速やかに対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品、オリゴ糖などを取り入れるようにしている。また水分量が適切かどうか確認している。お一人おひとりの排泄パターンを知り、自然排便を促すよう工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人おひとりの力に応じ、声かけや介助を行っている。就寝前は義歯を洗ったあと、洗浄液につけ夜勤者で管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は月単位記録表に記入し、職員は情報を共有している。栄養士が中心となり、摂取量の把握や食品等に偏りが無いようチェックしている。		個々の入居者が必要な栄養や水分がとれるよう、お一人おひとりにあった支援をしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者だけでなく職員も毎年受けている。感染症対策のマニュアルを作成し、特に感染が予想されるものに対しては早めの予防・対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾類は、毎晩消毒している。冷蔵庫内の点検も頻回に行い、賞味期限や食材の残りの鮮度を確認している。全職員が食中毒に関する情報や対応策について周知し、予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに不要な物を置かず、出入りがスムーズにできるようにしている。花を活けたり玄関先にプランターを置き、季節感をだしている。家庭的な雰囲気であり、施設のイメージはない。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓には入居者が庭で摘んできた草花を飾り、広縁やリビングの壁面は季節を感じられる飾り付けをしている。リビングダイニングは食事を作るとき音や匂いなど、生活感が身近に感じられる空間になっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや広縁にソファやテーブルを置き、思い思いに過ごせるよう工夫している。入居者同士の関係を考慮し、座る位置を決めている。入り江に面した広縁には喫煙コーナーがあり、誰にも気兼ねなくひとりの時間を楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具類を持ってきてもらうようにしている。写真や小物など入居者が好まれるものを一緒に飾り、居心地の良い空間作りを心がけている。		入居者によっては荷物の持込が少ない方がいる。ご本人やご家族と相談し、その人らしく過ごせる部屋作りをしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は窓をあけ換気を行い、天気の良い日は網戸にして風通しをよくしている。また入居者の状況に合わせ、こまめに温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の状況により車椅子を使用したり手引き介助を行い、できるだけご本人の力が活かせるよう支援している。必要な箇所には滑り止めテープや手すりを設置し、転倒防止に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱の原因となった環境や物品に対しては、速やかに対処している。トイレや居室はわかりやすく表示しているが、必要な方にはその場所まで誘導している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員中心ではあるが、プランターに花を植えたり畑で季節の野菜を作っている。庭や道ばたにある花を摘んでホーム内の色々なところに飾ってくださる方もいる。		戸外スペースを、入居者の楽しみや能力を活かす場として活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは名護の入り江に面した静かな住宅の中に建てられており、環境的にとても恵まれています。地域の皆様の協力を得て、敬老会やお祭りなどの行事にも参加させて頂くようになり、交流の機会も増えてきました。また、シルバー人材センターの方に食事作りや掃除の一部をお願いしたり、ボランティアの受け入れを行うなど、常に外部の目を入れ閉鎖的にならないよう心がけています。平成21年4月からは、毎月の職員会議に加え“認知症ケアの学習会”も行い、質の高いケアが提供できるよう努力しています。

人権・安心・共生の理念のもと、入居者お一人おひとりのペースを大切にし居心地良く暮らして頂けるよう支援していきたいと思っています。